



## 平成25年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月10日

上場会社名 アプリックスIPホールディングス株式会社  
コード番号 3727 URL <http://www.aplix-ip.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 郡山 龍  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 伊藤 洋

TEL 050-3786-1715

四半期報告書提出予定日 平成25年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年12月期第1四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第1四半期	2,085	1.8	△366	—	△332	—	△334	—
24年12月期第1四半期	2,049	△1.3	△327	—	△315	—	△378	—

(注) 包括利益 25年12月期第1四半期 △222百万円 (—%) 24年12月期第1四半期 △261百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第1四半期	△26.67	—
24年12月期第1四半期	△30.18	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第1四半期	12,186	10,085	83.1
24年12月期	12,580	10,308	82.3

(参考) 自己資本 25年12月期第1四半期 10,132百万円 24年12月期 10,355百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年12月期	—	—	—	—	—
25年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	8,182	9.1	△613	—	△651	—	△798	—	△63.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成25年12月期の第2四半期業績予想につきましては、当社技術を搭載した民生用電子機器を顧客が出荷する中で、当社の第2四半期末を跨ぐ6月から7月に新たな製品の発売が集中しており、出荷タイミングが前後することで当社の売上計上の時期が変わってしまうことから、当社単独では確度の高い予想を出すことが非常に困難であり、開示を控えさせて頂いております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期1Q	12,553,930 株	24年12月期	12,553,930 株
25年12月期1Q	5,856 株	24年12月期	5,063 株
25年12月期1Q	12,548,423 株	24年12月期1Q	12,551,681 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における当社グループの主な事業分野である携帯電話市場は、国内携帯電話契約加入台数が1億3,172万台で前年同月比106.1%（出典：社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」平成25年3月末時点）と増加傾向にあるものの、スマートフォンが占める割合が増加しており、従来型携帯電話端末（以下「フィーチャーフォン」）の販売台数は前年同月比68.3%（出典：J E I T A 移動電話国内出荷台数実績 平成25年2月末時点）と減少しております。このような、スマートフォンが携帯電話市場全体を牽引する傾向は今後更に顕著になると予想されます。これは海外市場でも同様であり、スマートフォンへの移行はグローバルに進行しております。

また、当社グループの新規事業分野であるM2M市場では、経済産業省がスマートフォンを使ってエアコン等の家電製品の電源を外出先から入れられるよう省令の解釈を変更し、平成25年4月中に家電メーカー等に通達する見通しがある等、規制緩和が進んでおり、今後更なる市場の拡大が期待されます。

当社コンテンツ・サービス等事業を取り巻くエンターテインメント市場は、ゲーム・音楽・電子書籍等を中心としたコンテンツ・サービスが多様化するとともに、携帯端末・パソコン・テレビ等への映像配信サービスや、SNS・App Store・Google Playをはじめとするプラットフォームが拡大を続けております。また、通信キャリアの垣根を越えて利用できるLINE等のグループコミュニケーションアプリが人気を集める等、新たな分野やビジネスも登場しております。更に、大手SNS事業者の海外展開が本格化する等、今後更なる市場の拡大やグローバル化が期待されます。

各セグメントの概況は以下のとおりであります。

#### (a) ソフトウェア基盤技術事業

中核事業であるソフトウェア基盤技術事業の売上ににつきましては、スマートフォン向け製品において、前連結会計年度までの傾向を維持し、引き続き売上が堅調に推移いたしました。一方、フィーチャーフォン向け製品の売上においては、前第4四半期連結会計期間の傾向から一転、再び下落基調となりました。これらの結果、国内市場を総合すると前第1四半期連結累計期間に比べ約20%の減少となりました。

中国市場において前第2四半期連結会計期間にスマートフォンの出荷台数がフィーチャーフォンの出荷台数を超える等、海外市場においてもスマートフォンへの移行が進んでおります。この結果、Samsung、Motorola Mobility Inc.、Huawei Technologies Co., Ltd.等の大手携帯電話端末メーカーのフィーチャーフォンへの「JBlend」搭載数は減少傾向にあり、当第1四半期連結累計期間の売上に影響しております。

また、ソフトウェア基盤技術事業の主力事業会社である株式会社アプリックスは、前連結会計年度より同事業セグメントのiaSolution Inc.（平成25年4月1日付でAplix International Inc.に商号変更）及びZeemote Technology Inc.とともに、身の回りにある既存の機器につなぐだけでその機器をネットワーク対応にするM2M製品の開発を推し進め、これまで重厚長大型のものに限られていたM2Mの市場拡大に取り組んでおります。

M2M技術の事業では、あらゆる機器をスマートフォンにつなぐ「JM1」と、ネットにつなげる「UD1」の2種の製品を中核としております。当第1四半期連結累計期間においては、これらに加えて電子機器メーカー向けにスマートフォンに対応したBluetoothモジュール用のファームウェア「Zeemote STF」のライセンス提供を開始し、400社以上にBluetoothモジュールを提供しているエイディシーテクノロジー株式会社に採用されたことを発表いたしました。

「Zeemote STF」を搭載することによりiPhoneやAndroidのアプリケーションから家電製品、健康機器、玩具、ラジコン、ヘルスケア機器やフィットネス機器等のあらゆる機器をコントロールすることが簡単にできるようになります。当社では、世界で約8億台の携帯電話やスマートフォンに搭載されているアプリケーション実行環境「JBlend」を開発してきた経験と実績を基に、既に数多くのアプリケーション開発者にソフトウェア開発キット「Zeemote SDK」を提供しており、これらのアプリケーション開発者が、機器メーカーの開発する製品に合ったアプリケーションを提供できるよう周辺環境の整備や仕組みづくりを推進しております。

当社は、「JM1」製品群をはじめとする本事業を中核基盤事業に据え、今後更なる急速な拡大が見込めるM2M及びスマートフォン市場に向けて、株式会社アプリックスの高いソフトウェア開発技術力と先進性を基に、競争力のある製品を市場にいち早く投入することにより、本事業の収益拡大を目指してまいります。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間のソフトウェア基盤技術事業の業績は、売上高875,474千円（前第1四半期連結累計期間の売上高598,487千円）、営業利益105,083千円（前第1四半期連結累計期間の営業損失233,563千円）となりました。

#### (b) コンテンツ・サービス等事業

コンテンツ・サービス等事業の主力事業会社である株式会社ジー・モードは、「空気読み。」シリーズの最新作として、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーとの協業により「よしもとの空気読み。」を開発し、3月1日よりauスマートパス、App Store、Google Playの3つのプラットフォーム向けに配信を開始いたしました。ま

た、3月14日には「スカイガレオン」シリーズ最新作「蒼穹のスカイガレオン」をApp Store、Google Playにて配信を開始いたしました。両作品共に好評を博している作品の続編ということもあり、リリース直後にランキング上位に入る等、今後の顧客基盤の強化拡大に寄与するコンテンツになると考えております。また、シリーズ累計150万ダウンロードの実績を持つ「フライハイト」シリーズ最新作の開発も進めており、成長を続けているスマートフォン向けコンテンツ市場に向け、開発体制を更に強化してまいります。なお、フィーチャーフォン向けを主体とした公式コンテンツ配信事業につきましては、厳しい市場環境に対応すべく、運営手法の見直しや、不採算コンテンツの統廃合による効率化を引き続き推進してまいります。

株式会社アニメインターナショナルカンパニーが展開するアニメーション制作事業においては、1～3月TV放映向け受託作品2作品と、4～6月TV放映向け受託作品1作品の先行納品による売上を計上しております。また、引き続き出資分配金や制作印税等の著作権収入が売上に貢献しております。

なお、前連結会計年度からの継続課題であります、業務効率改善につきましては、拠点集約後に人員の適切な配置を実施しており、当連結会計年度中に改善の効果が出る状況にあります。今後も継続して制作体制の見直しを検討・実施してまいります。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間のコンテンツ・サービス等事業の業績は、売上高1,210,306千円（前第1四半期連結累計期間の売上高1,450,537千円）、営業損失160,423千円（前第1四半期連結累計期間の営業損失93,537千円）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は2,085,780千円（前第1四半期連結累計期間の売上高2,049,025千円）となりました。営業損益につきましては、366,509千円の営業損失（前第1四半期連結累計期間の営業損失327,694千円）となりました。経常損益につきましては、為替差益の計上等により、332,531千円の経常損失（前第1四半期連結累計期間の経常損失315,502千円）となりました。四半期純損益につきましては、334,632千円の四半期純損失（前第1四半期連結累計期間の四半期純損失378,761千円）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して394,118千円減少し12,186,712千円となりました。これは、現金及び預金が575,117千円増加し、有価証券が954,759千円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して170,905千円減少し2,101,666千円となりました。これは、前受金が142,271千円、受注損失引当金が101,571千円それぞれ減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して223,213千円減少し10,085,045千円となりました。これは、主に四半期純損失を334,632千円計上したことに伴い利益剰余金が減少したこと等によるものです。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間末における自己資本比率につきましては、前連結会計年度末と比較して0.8ポイント増加し、83.1%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通しにつきましては、平成25年2月14日の発表数値から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,442,333	4,017,451
受取手形及び売掛金	1,441,801	1,612,628
有価証券	3,008,894	2,054,135
商品及び製品	360,201	378,134
仕掛品	227,277	129,443
その他	701,747	366,932
貸倒引当金	△31,236	△30,608
流動資産合計	9,151,018	8,528,117
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	476,501	453,605
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	185,799	173,533
土地	46,000	46,000
建設仮勘定	2,803	2,803
有形固定資産合計	711,105	675,942
無形固定資産		
のれん	294,690	267,900
ソフトウェア	1,214,007	1,401,497
ソフトウェア仮勘定	290,889	277,173
その他	5,094	5,056
無形固定資産合計	1,804,680	1,951,627
投資その他の資産		
投資有価証券	201,104	214,706
その他	712,922	816,318
投資その他の資産合計	914,027	1,031,025
固定資産合計	3,429,812	3,658,594
資産合計	12,580,831	12,186,712

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	457,652	422,842
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	43,937	40,550
未払金	428,427	472,429
未払法人税等	40,665	24,736
前受金	378,954	236,682
賞与引当金	75,681	110,919
返品調整引当金	29,211	18,615
受注損失引当金	101,571	—
その他	469,366	535,389
流動負債合計	2,125,469	1,962,166
固定負債		
長期借入金	115,985	106,490
退職給付引当金	16,343	18,396
その他	14,774	14,614
固定負債合計	147,102	139,500
負債合計	2,272,572	2,101,666
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,264,700	13,264,700
利益剰余金	△2,567,550	△2,902,183
自己株式	△11,077	△11,362
株主資本合計	10,686,072	10,351,154
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△212,725	△148,754
繰延ヘッジ損益	31,190	30,087
為替換算調整勘定	△148,617	△99,774
その他の包括利益累計額合計	△330,152	△218,441
新株予約権	△47,660	△47,667
純資産合計	10,308,259	10,085,045
負債純資産合計	12,580,831	12,186,712

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	2,049,025	2,085,780
売上原価	1,603,318	1,679,741
売上総利益	445,707	406,039
販売費及び一般管理費	773,401	772,549
営業損失(△)	△327,694	△366,509
営業外収益		
受取利息	5,539	3,840
受取配当金	900	—
為替差益	22,114	28,290
その他	1,525	3,699
営業外収益合計	30,079	35,829
営業外費用		
支払利息	231	1,051
投資事業組合運用損	11,072	—
持分法による投資損失	5,657	—
支払手数料	900	800
その他	26	0
営業外費用合計	17,888	1,851
経常損失(△)	△315,502	△332,531
特別利益		
新株予約権戻入益	—	6
特別利益合計	—	6
特別損失		
固定資産除却損	—	4,244
その他	—	347
特別損失合計	—	4,591
税金等調整前四半期純損失(△)	△315,502	△337,116
法人税、住民税及び事業税	73,567	20,396
法人税等調整額	△10,308	△22,880
法人税等合計	63,259	△2,483
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△378,761	△334,632
四半期純損失(△)	△378,761	△334,632



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△378,761	△334,632
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,483	63,971
繰延ヘッジ損益	41,340	△1,102
為替換算調整勘定	48,219	48,843
持分法適用会社に対する持分相当額	991	—
その他の包括利益合計	117,035	111,711
四半期包括利益	△261,726	△222,921
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△261,726	△222,921

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。